

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」の4のスペイン語については、'06年度、'07年度は2学部開講、'08年度は3学部開講、'09年度は7学部開講になる予定である。現行通年13クラスから来年度は20クラスに大幅に増加する。それに伴い、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語の履修希望者数の動向を探っていく。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

本センターが目標として掲げている国際人として活躍できる言語運用能力ならびに外国文化理解に優れた人材の育成について、どの程度達成されているかの数値的検証は非常に難しい。年度ごとの学生のレベル、動向によって浮き沈みがあるからである。例えば、前回取り上げた項目を見てみる。「英語コミュニケーション文化」副専攻プログラムの申込者数/合格者数は2007年度26人/18人であったのが、2008年度は39人/36人と大幅に増加している。英語セミナーの授業は人気があるが、英語による小論文を2本提出しなければいけない英語インデペンデント・スタディを引き続き履修する者は非常に少数であり、修了者数は2007年度はゼロであった。この問題を重視し、副専攻プログラムのカリキュラムについて現在、検討中である。次に英語インテンシブ・プログラム（I E P）で所定の単位を修得し、TOEFL550点以上の者にはI E Pの修了証を授与しているが、2004年度15人、2005年度17人、2006年度13人、2007年度16人と少し増加している。次に毎年6月に本センターが実施するTOEFL-IIPで500点以上の成績をとった学生数は、2007年6月実施分で申込者888人中160人、2008年5月実施分で申込者764人中227人である。2008年度5月実施分は申込者は激減したが、レベルの高い学生特に1年生が多かった。このように一概に評価できない状況があるが、今後、検証の方法について検討していく。本センターは英語に限らず多様な言語について全学提供したり、様々なプログラムを提供してやる気のある学生達に多くの機会を提供し、ひいては本センターの人材育成の目標に学生達が近づく大きな役割を果たしていると言える。

学内第三者評価

ミッションは明確であり、カリキュラム権の制約があるなかで、引き続き教育プログラムの充実が進んでいると認められる。

2007年度の学内第三者評価にあるように、現在書かれている内容に加えて、センターとして掲げている人材育成の目標がどの程度達成されているかについての検証の記述を加えることが求められる。